



# サントリーニ島の印象

絵・文 谷村 伸一 (西京) 油彩 80M (145.5cm×89.4cm)

## サントリーニ島

エーゲ海のほぼ中央に点在するキラデス諸島。中でも「世界で一番美しい島」と言われるサントリーニ島。300mの断崖絶壁に囲まれた火山島で、船で近づくと九十九折りの道を登るバスが見えます。ロバタクシーやロープウェイもあり古代遺跡もありますが、崖

上のフィラの街から特産品のワイン(白の辛口)片手に潮風に吹かれながら海を眺めるのが最高です。強い日差しをはね返すため、雑菌から街を守るため、家の壁や石の塀までとにかく漆喰で真っ白に塗られた街。ブルードームが見えるテラスからの白い家並み、断崖そして紺碧の海の眺望が印象的でした。



購読料 年8,000円  
送料共 但し、会員  
は会費に含まれる

発行所  
京都府保険医協会  
〒604-8162  
京都市中京区烏丸通蛸薬師  
上ル七観音町637  
インターワンプライス烏丸6階  
電話 (075) 212-8877  
FAX (075) 212-0707  
編集発行人 花山 弘

夏特集

京都を知らう 医史編

会員投稿

(255面)

(6面)

# 残暑お見舞い申し上げます

2024年 夏 京都府保険医協会 役員・事務局一同

ご用命は

アミスまで

- 医師賠償責任保険
- 休業補償制度 (所得補償、傷害疾病保険)
- 針刺し事故等補償プラン
- 自動車保険・火災保険

TEL 075-212-0303

## 在宅診療 — 忘れられない患者

中嶋 弥恵  
(宇治久世)



かわらず、私が往診するとベッドからよろよろ立ち上がりピタリ足を揃え、「本日はよろしくお願ひ申し上げます。こんなところまでお呼び立ていたしましたして恐縮です」と80度でお礼をして…ふらふら直立であった。いよいよ命が危うくなって、往診するといつもあいさつしようと思いをよじり、それでも立ち上がれず最終的に「申し訳ない。ごあいさつも満足にできません」と心のこもったお詫ひの言葉から診察が始まった。静かに亡くなられた時はただ視界が曇り、残された奥さまのお世話をきちんとしてお願ひした。

「ええ?! 亡くなったんですか!」と仰った。そして短い沈黙の後、「そうですか…やえ先生がそうおっしゃるんなら…分かりました…」と男泣きに泣き始めた。その時、初めて妻の死を自覚した様子だった。その時、いやいや!! 亡くなつたことに決まってるでしょ!! 看護師さんもそう言ってたでしょ! 家族一同そう思ってたでしょ!! という私の心の叫びは置いておいて、死亡確認ってポースでやるものじゃないんだ…そんな大事なものであったんだ…そしてアタシのことをそんなに信頼してたんだよ…とあの日、自分の仕事の責任の重さを思い知った。

Fさんはまじめな人だった。いつも白いワイシャツで猪首に紐ネクタイだった。本人いわくネクタイだと先生が診察しづらい、しかしノーネクタイだと無礼と勘案結果の服装とのこと。定年まで警察官。名前を呼ばれて入室するとピタリ足を揃え、「本日はよろしくお願ひ申し上げます」と80度でお礼をして座る。出室の時は「ありがとうございましたごさいました」と80度でお礼をして去って行った。

初めて会ってから2カ月後、末期肺がんが見つかりFさんは在宅療養となった。「自宅玄関にはFさんらしい爽やかな檸檬の日本画が飾られていた。SPD 80台となっているにもか」

その言葉を告げた時、旦那さまはひどく驚いてそして怒気を帯びた調子で「永眠されました」

電話が入り、20分後に私がお宅に着。私と旦那さまは度重なる訪問診療の中で何度も治療方針を話し合い関係は良好だった(と私は思っていた)上、亡くなるべくして亡くなった症例のため、私は聴診器とペンライトを取り出し、いつものように在宅看取りの死亡確認を行った。

### 診察室の必需品

還暦を大幅に過ぎてから開業したので、開業してまだ13年半。過口、めでたく？ 後期高齢者の仲間に入れさせてもらった。同級生はすでに開業して30〜35年という方が大半で、店仕舞いしたり閉院の準備に余念のない方も多いようだ。私も最近専門分野の症例が少なくなり、開業の曲がり角かなと思うことも増えてきたが、婦人科専門ということもあり、なおしつこく婦人科診療を続けている。



## 診療机に鎮座する木製の印鑑入れ

私の診療机にはデスクトップのパソコンの左側に木製の印鑑入れ二つと右側にも斜めに傾いた木製の印鑑入れが鎮座している。同級生はすでに開業して30〜35年という方が大半で、店仕舞いしたり閉院の準備に余念のない方も多いようだ。私も最近専門分野の症例が少なくなり、開業の曲がり角かなと思うことも増えてきたが、婦人科専門ということもあり、なおしつこく婦人科診療を続けている。

私の診療机にはデスクトップのパソコンの左側に木製の印鑑入れ二つと右側にも斜めに傾いた木製の印鑑入れが鎮座している。同級生はすでに開業して30〜35年という方が大半で、店仕舞いしたり閉院の準備に余念のない方も多いようだ。私も最近専門分野の症例が少なくなり、開業の曲がり角かなと思うことも増えてきたが、婦人科専門ということもあり、なおしつこく婦人科診療を続けている。

嫌で嫌でたまらなかった思いがある。やはり私としては書くことで記憶に定着(むろん、定着しないこともあるが)する確率が増える。キーを

だろ。さらに大事なところには紅色の赤鉛筆でアンダーラインを強く引く楽しい作業も残っている。ちなみに、この紅色の赤鉛筆を探すのが現

だ。さらには大事なところには紅色の赤鉛筆でアンダーラインを強く引く楽しい作業も残っている。ちなみに、この紅色の赤鉛筆を探すのが現

ティッシュで拭いて文字を鮮明にする。まさにこの作業は印鑑供養とも呼んでおきたい。

今年6月に恒例の近畿産科婦人科学会の春季大会が奈良で実施されるので新しい印鑑入れ(印鑑立てとも言うらしい)を新調したい。近鉄であれJRであれ奈良駅に降り立ったところ、墨や墨汁の匂いに包まれるので印鑑入れも独創的なものがあるのではと期待しているのだ。

阿部 純(宇治久世)



伴侶へ 作詞・作曲 小林 充

たとえ記憶が失われても  
心が生きていることを知ってる  
君の気持が和むころまで  
時をさかのぼろうか

星の瞬くあの空の下  
ふたり歌えばあの日へ帰る  
僕の名前を呼べなくなっても  
出会う前に戻っただけ

あなた優しい人だったから  
今度は私が支える番よね  
帰る帰るときかないあなたへ  
そうね、帰ろ、と微笑む

少し歩いて気づいて欲しい  
いつも弾いていたギターはここよ  
ここがふたりで帰る場所なの  
あなた一人にはしない  
決して先には逝くまい

いつも教えられた  
本当の言葉

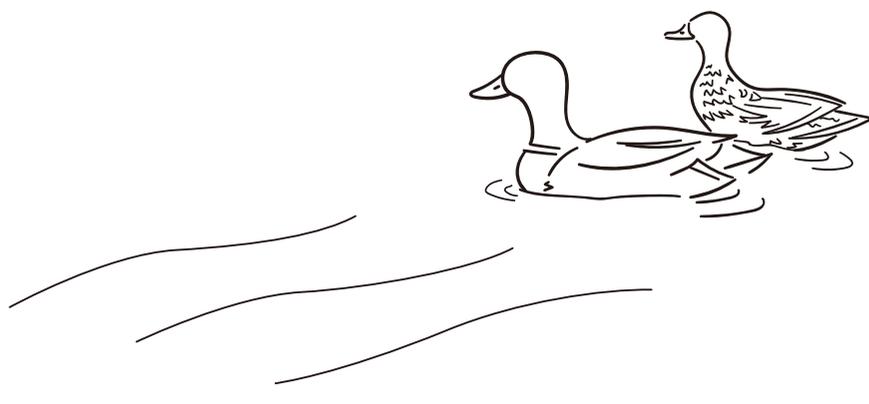
すべて受け入れ寄り添って歩く  
僕にもできることだろうか  
それほど深く愛せるかな

QRコードと You can listen here.

京都府下で働いていた時、夜の駐車場で同僚が慌てて走って来ました。「誰か用水路に落ちている！」慌てて駆けつけてみるとおじいさんが転落して動けなくなっています。幸い水が少なかったので溺れてはいませんが足を痛がって動けません。慌てて助け起こし救急車を呼びました。

奇遇にも、後日この方と奥さまに再会することになります。徘徊で何度もこのような事故にあっているそうです。「大変ですね」と奥さまに声を掛けたら「とても優しいいい人だったんです。だから私が元気なうちは、ね」と微笑まれました。

その経験をもとに作った歌です。近くの岩倉川でしばしば見かける鴨のつがいの様子を撮りためたものをつなげてあわせてみました。 小林 充(左京)







# Bellecôte 3,417m (en France)

岩田 啓史 (右京)



昔からスキーが好きでしたが、年を取り先がなくなったので海外にスキーへ行き出しました。フランスのサヴォア地方にあるラプラーニュスキー場で写しました。

(2024年1月)

## 小説「砂の城」(遠藤周作) — 私にとっての名著 —

江藤 孝史 (下京西部)



写真は今年2月の京都マラソン。タイムは5時間16分でした

私にとっての名著とは遠藤周作(1923-1996)の「砂の城」(1976年刊行)です。1970(昭和45)年頃を時代設定とするこの小説は長崎の高校に通う主人公の少女が16歳の誕生日に亡き母からの手紙を受け取るシーンから始まります。主人公が2歳の時に結核で亡くなった母は、16歳の誕生日に渡すようにと夫(主人公の父)に託していたのです。多感な時期を戦時中に過ごした母は、美しいものは決して消えないことをしみじみ感

じたと手紙に書き記し、「美しいもの、善いものへのあこがれを失わないで生きて行ってほしい」という想いを16歳になった娘へ書き残しました。主人公は母からの手紙を受け取った16歳の誕生日を一生忘れず、「決して消えることのない美しいもの、善いものへあこがれを持ち続ける」意味を友人や先生との交友を通じて追い求めています。



砂の城 遠藤周作 著 主婦の友社発行 1976年

数年、テレビ番組で中江有里さん(女優、作家、歌手)がこの小説本を手に取り、「美しいものはかならず消えない」という言葉に感銘を受けた

私がこの小説を読んだのは中学3年生の夏休み(1986年7月24日)でした。本を開くなり「生きる」との言葉が目に入った時は衝撃でした。14歳の私にはそれまで生きることについて真摯に考えたことが一度もなかったのに、洗礼とも言える衝撃でした。この衝撃は38年経った今でも鮮明に覚えています。砂の城を読んだその日の風景、天気、景色、風音、香り、家族、友人、先生、全てが鮮やかに記憶に残っています。52歳の今となっては返すと、14歳の私が「生きる」との尊さを知るにはあまりにも未熟であり「生きる」との重みを知ることになるのはずっと後になってからのことだったと今思っています。砂の城から受けた衝撃は人生の教訓となつて今の私の心に深く刻まれているのです。

私自身が目指しているものに置き換えることで、焦らずに研鑽し続けることにより安定した自分の位置に到達しようという一つの答えが導かれたと話されています。

と話されているシーンを見ました。中江さんは高校1年生の時に女優として上京したものの、当時は思春期で自分の位置が分からず感情が不安定だったそうです。砂の城の「美しいもの」

生きること：14歳の衝撃

ムラサキシキブ (紫式部)

辻 俊明 (西陣)



写真はムラサキシキブ

初秋の頃、ムラサキシキブ(紫式部)という名のシソ科の低木は玉石のような艶やかな紫色の実をつける。知性と美しさを兼ね備えた平安時代の女性作家「紫式部」のイメージになぞらえ、このように命名されたようだ。秋が深まるにつれて葉は徐々に黄色く色づき、紫色の実は余計に人目を引くようになる。付けられた英名は「Japanese beautyberry」。気品と美の紫だ。

現在放送中のNHK大河ドラマ「光る君へ」では紫式部の半生が描かれている。第4回放送で女優の吉高由里子さん演じる主人公の「まひろ」(紫式部)が十一単を身にまとい舞った美しい雅楽「五節舞」は平安時代に現在の形になり、一時期は再興されたが再興され、今の天皇陛下即位の際にも披露された。いにしへの美しさは時を超え、今なお人々を魅了する。

紫式部が著した「源氏物語」は繊細な心理描写により、日本最高峰の古典文学と称賛されてきた。五節舞や古典文学に見られるような美意識の他に、わが国には古来より、困った時にはお互い助け合い、支え合うという精神的な美意識がある。医療、介護などの社会保障制度ももともとこの美意識に基づいて設計された。

わが国特有の伝統的美意識は、文学、歴史、社会制度など精神文化の中に今なお息づいている。そしてこれからの社会の多くの局面で見出されるであろう。いずれの時代でも、どのような社会にも、美は存在する。そして美しさは新たな美しさを触発する。「まひろ」の舞は現代社会の中で、未来の社会の中で、さまざまな様式的美を触発し続けるのである。



# 女性医師の賃金格差

磯部 博子 (宇治久世)

6月12日、世界経済フォーラム(WEF)がまとめた2024年グローバルジェンダーギャップレポートが発表され、男女格差の達成率を比べる「ジェンダーギャップ指数ランキング」で日本は146カ国中118位でした。分野別で見ると、教育や医療へのアクセスでは男女間の平等をほぼ達成しているのですが、政治分野では113位、

経済分野では男女の賃金格差が悪化して120位でした。この男女の賃金格差問題に関しては2022年の女性活躍推進法の改正により常時雇用する労働者が301人以上の企業は男女の賃金の差異を公表することが義務付けられました。これによって企業の労働環境が透明化され、賃金格差の解消が促されることを期待していたのですが、まだまだ成果は得られない状況のようです。まずは格差の実態を見える化しないと問題を認知できないといったところでいいでしょうか。国にはさらなる対策の強化に早急に取り組んでいただきたいものです。

男女平等の取り組みが停滞しているのは医療の世界でも同様です。2023年の厚労省の賃金構造基本統計調査を基に全国保険医団体連合会が調査・分析した結果、女性医師の平均賃金は男性医師の75%程度にとどまっていることが分かりました。残業代や休日手当など超過労働給与を含まない所定内給与と賞与等の年額で比べても女性は男性より34.8万円少ないという結果が出たのです。

また、研修医に当たる30歳未満でもなぜか女性は男性の90%程度しかもらっておらず、スタート時点から説明できない男女賃金格差があることが分かりました。なぜ、そんなことが起こるのでしょうか。大きく分けて二つの原因があると思います。一つは男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりなどが根

強く残っていること。そしてもう一つは日本独特の仕事優先の考え方があるからではないでしょうか。これらの原因を解決するには男女の役割へのイメージを払拭するような意識改革が必要です。大まかな施策を打ち出すだけでは浸透しにくいので、まずは管理職に対する研修や指導、働く人たちがセミナーや講演会などに参加することにより、なぜ男女平等が必要なのかといった基礎から学ぶ必要があると思います。

また、男女の区別なく働ける環境づくりも大切です。それには性別のイメージに引っ張られない客観的で公正な評価制度の確立も必要です。結婚や育児などを理由にして女性がキャリア形成を諦めないようにする取り組みも必要です。男性も女性もまずは問題意識をしっかりと持つところからですね。

## 私のペット

竹田 一徳 (北丹)

ついに8歳の誕生日を迎えた我が家のチワワです。まだまだ食欲旺盛。早朝深夜の出勤、帰宅時にはよく吠えます(笑)。これからも元気でね。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

## 私の旅行記 天浜線 前編

### 見どころと鉄分満載 魅惑の地方鉄道

村上 匡孝 (綴喜)

天竜浜名湖鉄道、通称、天浜線は静岡県の第三セクター鉄道で、昔は国鉄二俣線として東海道線の迂回路としてブルートレインが走ったことがあります。東海道本線の掛川駅から遠州を北東に向かい、天竜川上流の天竜二俣駅を経て浜名湖の北を西へ、東海道本線新所原駅(湖西市)に至るローカル鉄道です。のどかな田園風景、茶畑、里山の中を一両の気動車がトコトコ走ります。沿線(特に北浜名湖や天竜川)の風景は日本の旅情そのもの。古い木造駅舎(写真1)や二俣機関区をはじめとする国の登録有形文化財の貴重な鉄道遺産が数多く残っている“鉄”の宝庫です。しかも、個性なお店を駅舎に誘致したり(写真2)、遺産でない駅舎をお洒落にリノベートしたりして人気を博しています。

始発ののぞみで名古屋に。ホームのきしめん朝飯。こたまで掛川、掛川から天浜線に乗り込みます。旧秋葉街道の名残を残す田園風景、遠州の村や町の名残の光景を眺めて揺られていると、天竜二俣駅に到着します(写真3)。ここぞ天浜線の要の駅。蒸機時代の機関車基地で現存する機関区です。車庫や転車台など全てが文化財ですが現役で使用されています。往時のまま残っている機関区の設備もろもろ、扇状車庫、鉄道マンの施設を見学できる、レトロで大きな鉄道劇場です(写真4、5、6)。

(2021年7月乗)

京の耳鼻咽喉科

京都を  
知ろう  
【医史編】

# 明治から令和へ 船鉾町で患者を診る

医療法人水越医院 水越 文和 医師

京都には歴代受け継がれてきた医療機関が多くある。医院に残されている記録や記憶を通して、当時の京都の町の暮らしや様子、医療状況を知るとともに、医院の基盤がどのようにつくられてきたかを紹介する。今回は京都市下京区の医療法人水越医院の水越文和医師に聞いた。

伊勢出身の祖父・重助が大正14(1925)年に伊勢から大工を呼び寄せ、鉄筋コンクリートの3階建の医院ビルを建設し(写真2)、翌年に完成させた。当時としては珍しい洋風の鉄筋コンクリート造の建物は「地震があっても絶対に倒れない」とリフォーム工事を請け負う職人は言う。「でもこの建物は終戦に京都にやって来た進駐軍に接収され、米軍用の病院だった過去があるのです」。終戦の1

個人住宅は京都市内で149戸との記録が残っている。接収対象となった建物は当然所有者が拒むことはできず、米軍は自分たちが利用しやすいように改造して占領した。水越医院は接収された後も、裏にある母屋の一部で診療を続けた。

## 敷地内で米軍が行き交う中、診療を続けた

父・治、母・郁子は京都府立医科大学、京都府立女子医学専門学校出身でともに耳鼻咽喉科医師であった。治は卒業後、大学に残り、耳鼻咽喉科科学

鍼灸大学、ノートルダム女子大学の学長を務めるなど、学術と教育に生涯を捧げた。

第二次世界大戦までの日本は女子学生を受け入れる国公立医療機関はほとんどなかった。京都府立医科大学では昭



「工事が始まってから、いろいろ直さないといけないところが出てきました」と語る文和医師(工事中の医院ビル1階で) =2024年6月21日撮影

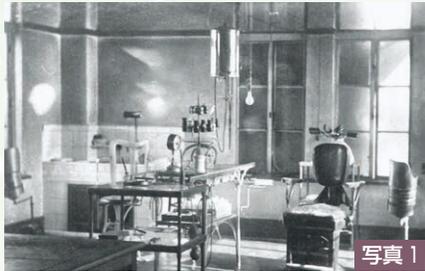


写真1



写真2

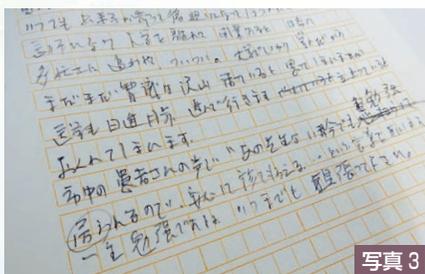


写真3

祖父・重助が診療していた当時の診察室(写真1)、大正14年の医院ビル工事(棟上げ)の様子、奥に見える母屋の2階から幼い父・治が抱かれてこちらを向いている(写真2)、『京都府立医科大学 大学昇格100周年記念誌』に寄せるための郁子の下書き(当時94歳)。令和の医学生生に向け、「一生勉強です。いつでも頑張ってください」と綴る(写真3)

# 祖父の思い 心願かなえるため

## 医院ビルの棟上げから100年を前に

和19(1944)年に女子医学専門部を附設し、3年間女子学生を受け入れた。郁子はその第一期生である(第一期生は81人)。物が無い時代で、紙は貴重だった。当時の講義について「主に口述でしたので一生懸命ノットに書き込みました。ノットに毎日沢山書くのでノートも自由に手に入りませんでした。書き残したの余白を集めたり、裏の白紙を集めて雑記帳にしました。教科書以外に単行本など本屋になく、岩波文庫も

平成9(1997)年に文和医師が3代目として医院を継いだ。「水越医院を継ぎ、ずっとかなえたいことがあり、アウツそのままに診療所を復活させようと考えています。年に祖父の医院ビルをやっと買い戻すことができたので、祖父に喜んでもらえるかなと

(敬称略)

## 補伝・外伝

### 祖父

父・重助は京都帝国大学耳鼻咽喉科初代教授の和辻春次に学び、明治44(1911)年に開業した。同じ頃、京都では7人の耳鼻咽喉科医が開業している。この開業医たちが年2回の集まりを持ったことが現在の京都府耳鼻咽喉科専門医会の発端となった。

### 進

駐軍が占領した個人住宅の記録が京都府の行政文書に残されている。記録されている個人住宅は接収した建物の改築や修繕のために京都府が費用を負担したものに限る。水越医院は丸紅ビルに置かれた進駐軍本部の関連施設として米軍用の病院に利用されていたようだが記録は残っていない。行政文書に残されていない形で接収された実態が当時の京都でどれだけあったかは不明だが、接収を知る人がいなくなれば歴史に埋もれていく事実となろう。

## 参考資料

『米軍基地下の京都1945年～1958年』大内照雄、図書出版 文理閣(2017年)、『連合軍接収施設工事関係係 D地区』(京都府立京都学・歴史館所蔵 昭和22-62)、『連合軍接収施設工事関係係 E地区』(京都府立京都学・歴史館所蔵 昭和22-63)、『昭和22年3月 木村知事、山本知事事務引継演説書』(京都府立京都学・歴史館所蔵 昭和22-32)、『京都府立医科大学 大学昇格100周年記念誌～比叡は明けたり～』京都府立医科大学学長・竹中洋/京都府立医科大学学友会会長・井端泰彦(2021年10月22日)

# 祇園祭鉾町に暮らす



水越医院は祇園祭の船鉾町にある。この町内に住む人たちにとって、7月の祇園祭の手伝いは欠かせない1年の大仕事だ。例年6月中旬から準備が始まり、7月の祭行事、7月下旬の後仕舞いまでの多くが力仕事の連続である。

7月3日吉符入。吉符入とは祭の神事始めて、開始宣言である。この日に「神

面改め」の儀式を行う。船鉾には御神体「神功皇后」がお付けになる面が二つある。本面は室町時代の作、写し面は江戸時代の作で船鉾では最も重要なものである。通常は貸金庫に納められており、この日、間違いなく引き継いでいることを確認する。

7月17日山鉾巡行。町内の役員総勢20数人がお

供として四条、河原町、御池、新町を5時間程かけて巡行する。「祇園祭の間は自分たちの役割で精一杯で、他の山鉾を見る時間はまったくありません」と文和医師は笑う。

左の写真：神面改めの様子。写し面を掲げる文和医師(右)〈出所：2012年7月3日京都新聞〉、右の写真：巡行の前に=2024年7月17日撮影

